

京大田辺文庫における二冊の Prinzip について

2018.06.23

京大文学研究科

現代文化学系 メディア文化学専修

教授 林晋

なにをしているか？ なぜ、ここにいるか？

- 林はユダヤ思想史には全くの門外漢
- 数学(思想)史、ITと資本主義の近代化論、デジタル・ヒューマニティーズ、そして、京都学派の思想史など、色々やっているが、2016年度末から手掛けているのが、西田幾多郎の新史料の翻刻。
 - [西田幾多郎の未公開ノート50冊発見「思考過程たどる史料」](#)、京都新聞
- このプロジェクトで、研究員として調査・研究をしてもらっている京大文宗教学専修出身の吉野齊志氏から、コーエン・シンポジウムへの参加を打診され、お礼のつもりで引き受けた。

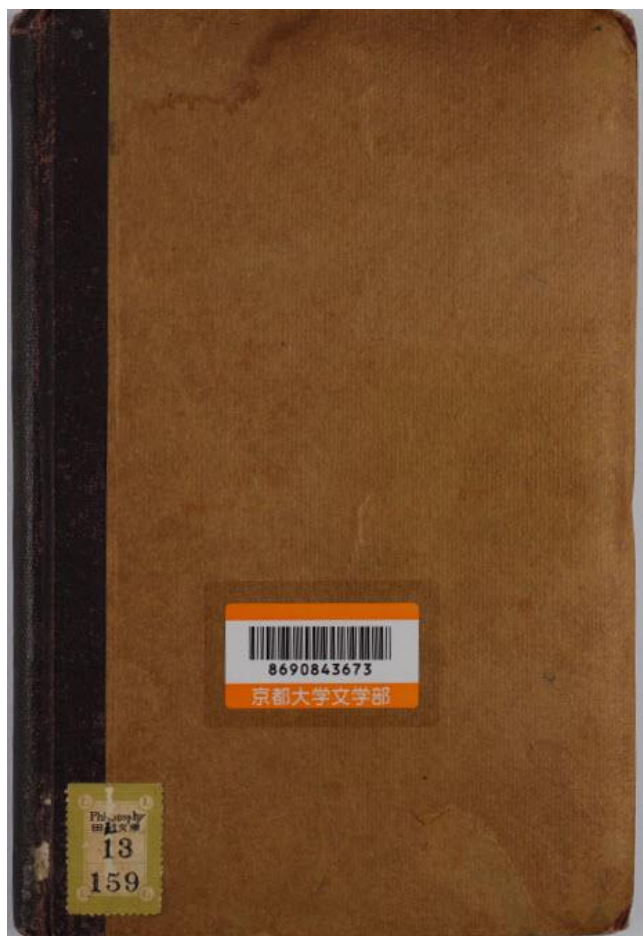
この話の内容

- 最初は、B.ラッセルの Principles of Mathematics 1903 でのコーエンの Das Prinzip der Infinitesimal-Methode und seine Geschichte 1883(以下 Prinzip)での無限小の哲学への批判と、それへのナトルプの反論(弁明?)でも調べて報告しようと思っていた。
- しかし、それをするだけの時間と気力がなさそうだと思う様になり、コーエン・シンポジウムにはふさわしくないかもしれないが、得意な文献調査の手法により、以前から気になっていた、京大文学研究科文学部図書館の田辺元文庫(以下、京大田辺文庫)に、何故か二冊の Prinzip があるという不思議について調べて報告することにした。
- 何故、全く同じものを、もう一冊買った理由までは分からなかったが、新しいものを買った時期が弁証法研究のころに重なり、新しいものでは、弁証法に基づくコーエン批判の書き込みがあることが分かった。
- 学術的意味があるかどうかは疑問だが、面白いので、それを報告。

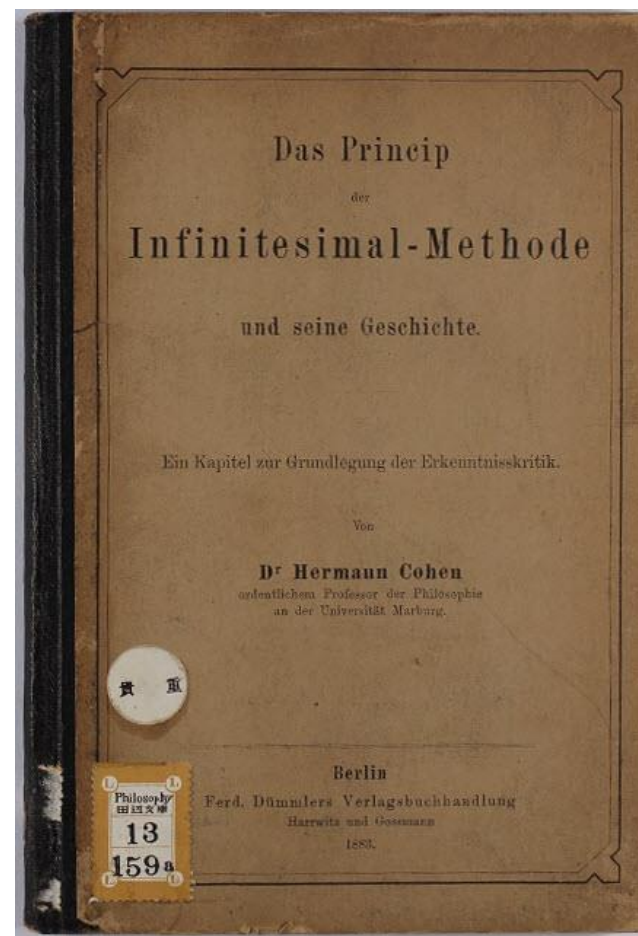
二つのPrinzip

- 京大田辺文庫には、Prinzipの初版が2冊ある。

Philosophy
田辺文庫
13 159

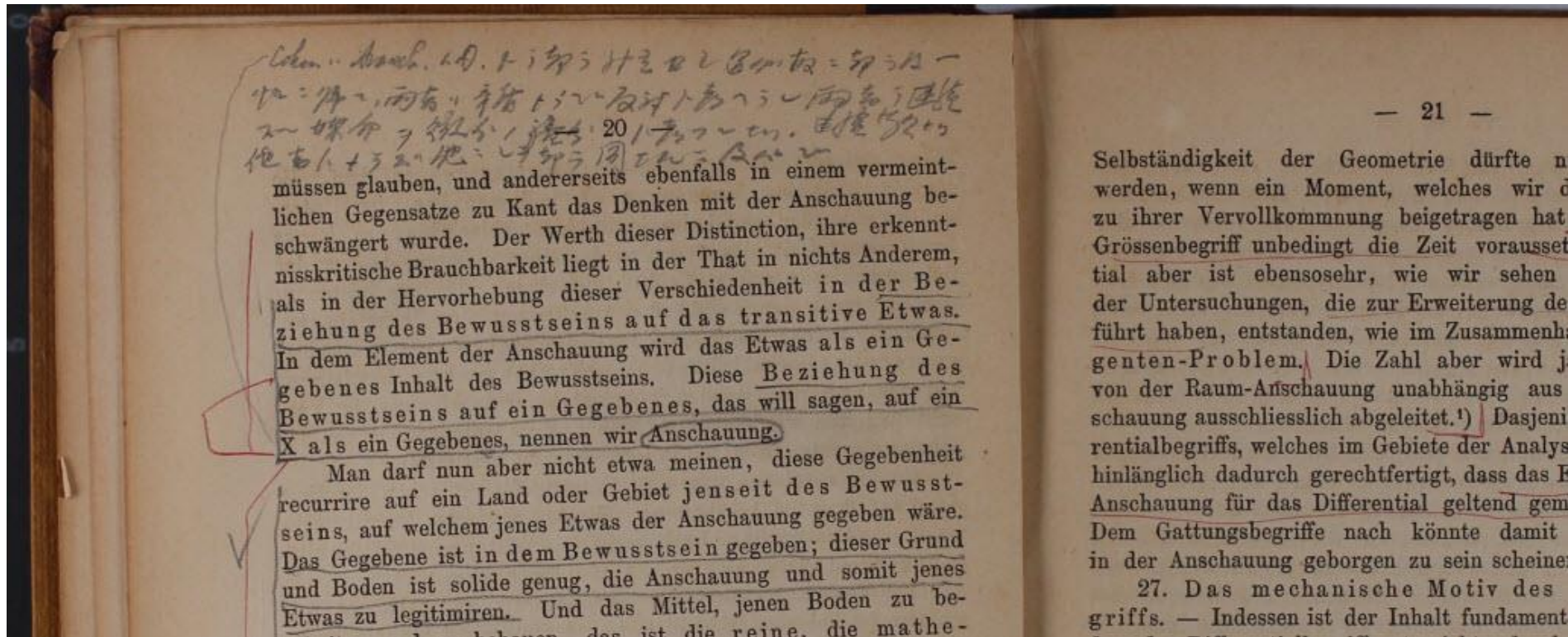


Philosophy
田辺文庫
13 159a



159と159a

- どちらも、1883年の初版本。請求番号の最後が159と159aなので、以後、これと呼ぶ。159は、林が田辺の書き込みを見つけて報告するまで貴重書扱いではなかったので、借出されて、青や赤のボールペンで書き込みが入ってしまった。また、159は装丁が、やり直されている。



二つの蔵書印

- 159と159aの関係は、今回の調査まで全く不明だったが、何か手がかりはないかと違いを探してみると、159と159aで、蔵書印が違っていた。
- 左の小判型が159、右の角型が159aのもの。

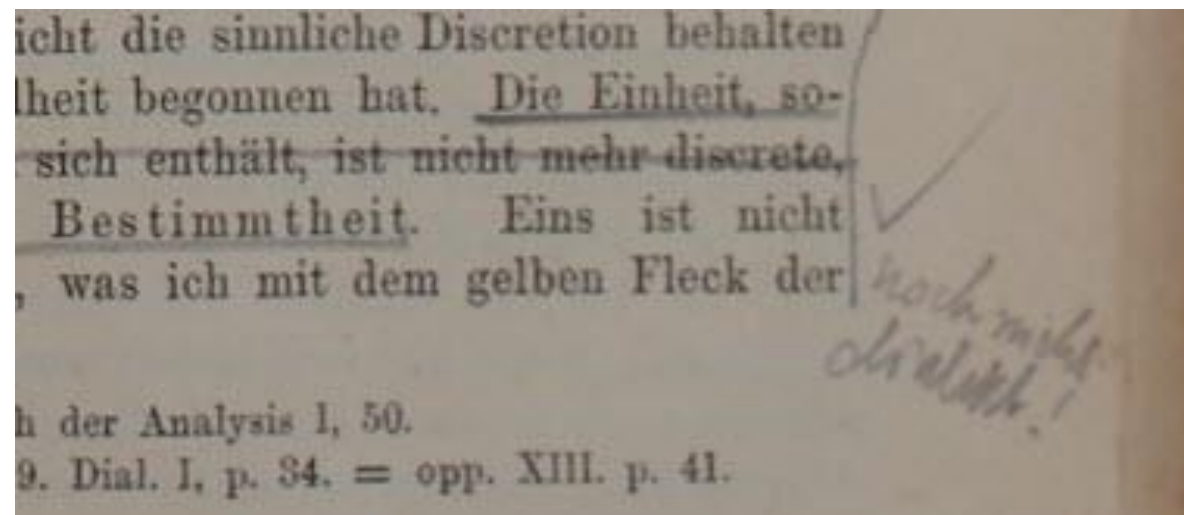


二つの押印と、その年代

- 田辺文庫の他の本も、この二つの印で押印されており、幾つか調べたところ小判型のものの方が古そうだった。
- そこで、学生バイトを雇い、京大田辺文庫の押印の悉皆調査をよることにした。バイトの時給は千円。2日はかかるはずなので、結構なバイト代になる筈だったが...
- 開始して1時間もたたない内に、Logosという哲学雑誌が所蔵されていて、これへの押印が、1923年か4年に田辺が手にしたもののまでは、小判型印、1925年に出版されたものからは角型印であることが判明！！！！
- つまり、159a は、1925年以後位に、159は、それより前に購入されたと思われる。

159a のコーエン批判

- 1925年は、弁証法研究、種の論理へと田辺が舵を切る契機と言われる「カントの目的論」の出版の翌年。
- その年以後に取得されたと思われる159には、コーエン批判の書き込みが入っていても自然と思い、探してみると、幾つかみつかった。
- たとえば、39ページ右下には、次の様な noch nicht Dialektik! という書き込みがある。



Cantor, Dedekind, Dialektik

- そして、その2ページ前の37ページ右下には、右のような興味深い書き込みがある。
- Grenze Cantors 的ニシテ Dedekinds Schnitt
ニモ及バズ 一方的ニテ反対両方面ヲ総合
セズ ■ ■ dial. ナク (?) Platoノ[フィレボ
スの意と思われるが綴りが読めず]ノ不定ノ
ニトナラズ

s wissenschaftliche
ung vollbringt ein
es gilt vor Raum
kten Rechten auch

Grundlage des
rater Elemente
menhange ver-
wird die Continui-
lichen Theilbar-
erhaupt nicht in
ondern sie bildet
Denkens, eine
hes als Bewusst-
n der Anschau-
keit so zu unter-
sslehre zu unter-
ität ist demgemäss
atischen Gebiete
am nächsten liegt,
aher vielfach be-

*Grenze
Cantors
Dedekinds
Schnitt = E
Bewusst-
n der Anschau-
keit so zu unter-
sslehre zu unter-
ität ist demgemäss
atischen Gebiete
am nächsten liegt,
aher vielfach be-*

田辺が批判した37ページ最後のパラグラフ

Die Continuität ist also eine allgemeine Grundlage des Bewusstseins: nicht auf Haufen disparater Elemente verwiesen zu sein, sondern im Zusammenhange vergleichbarer Glieder zu wurzeln. Somit wird die Continuität nicht erst als Stetigkeit in der unendlichen Theilbarkeit des Raumes wirksam, sie gehört überhaupt nicht in erster Linie der Raum-Anschauung an; sondern sie bildet eine fundamentale Bestimmung des Denkens, eine Grundgestalt desjenigen Bewusstseins, welches als Bewusstsein des Denkens von dem Bewusstsein der Anschauung oder dem Bewusstsein der Sinnlichkeit so zu unterscheiden ist, wie man Logik von Erkenntnislehre zu unterscheiden allgemeine geneigt ist. Die Continuität ist demgemäss auch ganz besonders in demjenigen mathematischen Gebiete fruchtbar, welches dem allgemeinen Denken am nächsten liegt, als der allgemeine Theil der Mathematik daher vielfach bezeichnet worden ist, der Zahlenlehre.

結論

- 159a は、田辺の弁証法研究以後に取得されたもの、少なくとも読まれたもので、その故に、コーエンには弁証法がないという立場で、コーエンを読み返しているところがみえる。
- また、林が、[「田辺の『数理哲学』」](#)などで指摘したように、出版されたものでは、昭和6年ころから見られる、カントルの実数論とデーデキントの実数論の対比で、前者が新カント派的な漸進・漸近的な世界観に立つもので、デーデキントの切断に比べて弁証法的性格に欠けるという発想が見られる。
- この史料に学術的意味があるか否か、159というコーエン主義を信奉していた時代の書き込みとの比較などが、さらに必要。